

番号	25	<b>令和4年度公共事業再評価調書</b>				担当課名	港湾整備課
事業名	海岸環境整備事業			事業主体	静岡県		
箇所名	熱海港海岸			関係市町	熱海市		
事業採択年度	平成 3 年度		計画期間	平成3年度 ~ 令和11年度			
用地着手年度	平成 - 年度		工事着手年度	平成 3 年度			
再評価理由	再評価実施(H29)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~R2年度	R3年度	R4年度見込	計	
	17,118		15,184.0	171.0	60.0	15,415.0	
事業概要	<p>(1)事業目的 海岸防災機能を確保しながら、海浜と地域の特性を十分に活かし、地域住民等が海と親しみ、集い憩える場を創出するために、親水護岸と海岸緑地の整備を図る。</p> <p>(2)事業内容 ①渚地区：突堤 1基、堤防 630m、遊歩道 22,800m<sup>2</sup>、植栽 4,330m<sup>2</sup> ②多賀地区：突堤 2基、護岸 569m、離岸堤(潜堤) 200m 遊歩道 32,000m<sup>2</sup>、養浜 31,200m<sup>2</sup></p>						
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 渚地区及び多賀地区とも供用した箇所は、海上花火大会、海水浴場、様々なイベントに利活用されており、市民や観光客に親しまれている。 コロナの影響により来訪者が減少していたが、様々なイベントも復活しており、来訪者が増加している。</p> <p>(2)事業の投資効果 費用対効果(B/C)：7.5、経済的内部収益率(EIRR)：28.3% ・総便益(B)：3,268億円 (CVM便益：87.5億円、TCM便益：3,180.6億円) ・総費用(C)：436億円 (建設費：400.2億円、維持管理費：36億円)</p> <p>(3)事業の進捗状況(令和4年度末見込み) 【事業費】90.1%(15,415百万円/17,118百万円) 【事業量(渚地区)】69.5%(438m/630m) 【事業量(多賀地区)】100%</p>						
事業の必要性等	評価	継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない					
【視点2】	<p>埋立土砂も順調に搬入されており、残る渚地区第4工区の早期完成を目指す。当該事業は、安全で快適な海浜利用の増進を図っており、地元や関係者からの事業に対する期待も大きく、令和11年度までの計画期間内における完成が見込まれる。</p>						
今後の事業の進捗の見込み	評価	継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない					
【視点3】	<p>(コスト縮減について) 建設発生土を埋立材として利用しコスト縮減を図っており、引き続き護岸上部を二次製品で施工すること等も検討し、コスト縮減に努めていく。</p>						
新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性							
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続) ・ 見直し後継続 ・ 中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は、海岸防災機能を確保しながら、地域住民が海と親しみ、集い憩える場を創出するものである。近年、多くの人々(市民、観光客)に利用され、熱海市の観光拠点となっており、早期整備が求められている。さらに、事業の投資効果も見込まれ、地元や関係者からの事業に対する期待も大きいため、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>						

## 費用対効果の算出説明書

### 熱海港海岸 海岸環境整備事業

#### 1. 分析設定

・費用対効果分析の基本的な考え方

「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)(令和2年4月 一部更新) 平成16年6月」

「治水経済評価マニュアル(案)」令和2年4月

(各種資産評価単価及びデフレーターは令和4年3月改正版))

・社会的割引率 4%

#### 2. 分析結果

##### 総括表

総便益B	[海岸環境保全便益] + [海岸利用便益]	3,268.1億円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	436.2億円
B/C	費用便益比	7.5
EIRR	経済的内部収益率	28.3

##### 総便益

○「浸水防護便益」  
 年平均被害軽減額を社会的割引率4%、評価対象期間89年(工期39年+50年)とし、現在価値化する。

$$\text{便益計} = \sum \text{年平均被害軽減額} / (1+0.04)^n$$

$$= 3,268.1 \text{億円}$$

##### 総費用

全体事業費 436.2億円(事業費400.2億円、維持管理費36億円)

$$\text{費用計} = \sum \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$$

$$= 436.2 \text{億円}$$

## 1 事業箇所 位置図



## 2 事業目的

海岸防災機能を確保しながら、海浜と地域の特性を十分に活かし、地域住民等が海と親しみ、集い憩える場を創出するために、親水護岸と海岸緑地の整備を図る。

- ・熱海港は、背後に全国屈指の温泉都市をひかえており、静岡県の観光資源として大きな役割を持つ。
- ・渚地区は「地中海風のリゾート」をコンセプトに、熱海サンビーチに隣接した4つの工区からなる「渚親水公園」を整備。
- ・多賀地区は「長浜海水公園」として、海水浴場やイベント広場・休憩施設を備える緑地を整備。
- ・各公園の整備により、年間を通じて多くの観光客が訪れる。

海岸利用者増加等による便益(経済効果)の増大



渚地区(整備箇所)



多賀地区(整備箇所)

- ・渚地区は、平成3年度から整備が開始され、全4工区のうち、第1工区から第3工区は平成21年までに整備完了。第4工区は令和11年度に整備完了予定。
- ・多賀地区は、平成4年度から整備が開始され、平成22年度までに整備完了。

### 3 事業概要

【事業期間】 平成3年度～令和11年度  
 【全体事業費】 17,118百万円  
 【進捗率】 事業費： 90.1% (15,415百万円/17,118百万円)

#### 【事業内容】渚地区

突堤：1基  
 堤防：延長630m  
 遊歩道：面積22,800m<sup>2</sup>  
 植栽：面積4,330m<sup>2</sup>

#### 【進捗率】

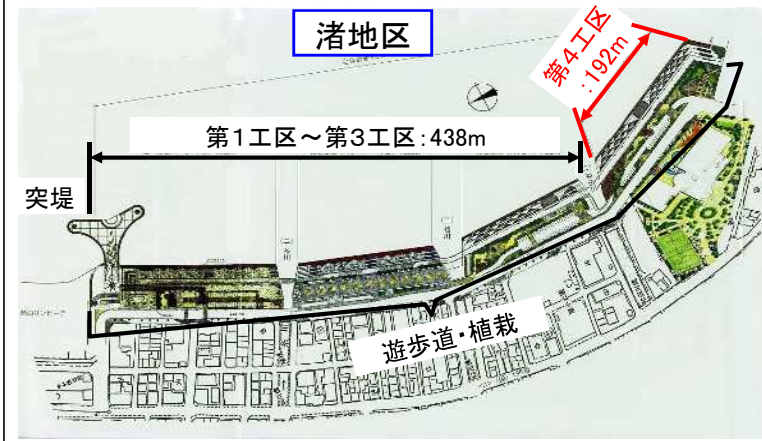
事業量(渚地区)：69.5% (438m/630m)

#### 【事業内容】多賀地区

突堤：2基  
 護岸：延長569m  
 離岸堤(潜堤)：延長200m  
 緑地：面積32,000m<sup>2</sup>  
 養浜：面積31,200m<sup>2</sup>

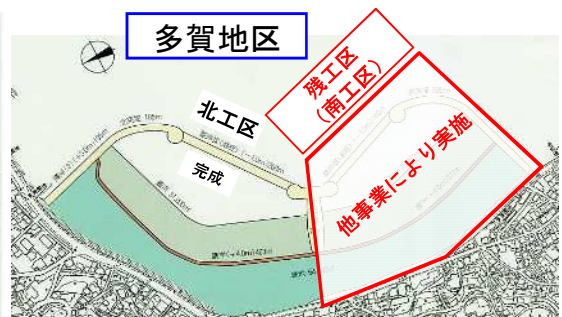
#### 【進捗率】

事業量(多賀地区)：100%



### 3 事業概要(事業を巡る社会情勢等の変化)

前回からの変更点	前回(H28)	今回(R4)	主な変更理由
①計画期間	H3～R11	H3～R11	(変更なし)
②全体事業費	21,149百万円	17,118百万円 (-4,031)	残工区を他事業で実施・・・②-2
・渚地区	9,070百万円	9,070百万円	(変更なし)
・多賀地区	12,079百万円	8,048百万円 (-4,031)	残工区(南工区)を他事業(災害復旧事業及び高潮対策事業)により実施することとなったため。



## 4 事業の必要性 (事業の投資効果)

- ・総費用(C)に対する総便益(B)  
費用便益比  $B/C = 3,268 / 436 = 7.5$  ※前回 6.1
- ・経済的内部収益率 EIRR = 28.3% ※前回 24.1

**総費用(C) = 436億円 (現在価値換算)**

・事業費 : 400.2億円

・維持管理費: 36.0億円

※維持管理費は、各施設の供用開始から終了まで(50年間:R61年度まで)を計上

**総便益(B) = 3,268億円 (現在価値換算)**

①地域環境改善(緩衝・修景)便益[CVM]: 87.5億円

⇒海岸環境整備事業によって、海岸線の自然景観が保全される、あるいは海岸景観が改善されることにより生じる便益(=満足感や快適性の価値)

②交流・レクリエーション便益[TCM]: 3,180.6億円

⇒海岸環境整備事業によって生じるレクリエーション、イベント等での海岸の利用が現状より増大することにより生じる便益

※各便益は、各施設の供用開始から終了まで(50年間:R61年度まで)を計上

## 5 対応方針(案)

- ①多くの人々(市民、観光客)に利用される熱海市の観光拠点となっている。
- ②事業の投資効果及び必要性が十分に認められる。
- ③地元や関係者からの事業に対する期待が大きい。
- ④事業が順調に進捗しており、今後の事業の進捗が見込める。



本事業を **継続** する。